

研究**年少者用漢字テストの測定結果および年少者用 SPOT との関連性****—インターナショナルスクールにおける試行と分析—**

河野あかね(つくばインターナショナルスクール)

研究の目的:

年少者日本語評価科研グループでは、3種類の年少者用 SPOT(YA、YB、YC)および漢字テストを開発した。先行研究では、インターナショナルスクールにおける試行から、SPOTの正答数は、担当教師の各児童生徒の日本語力に関する総合評価と高い相関がみられた。(酒井・河野・小林 2015)。また、縦断的に実施することで、児童生徒の日本語力が向上していく様子が観察された(河野 2017a)。さらに、3種類の SPOT 間の接続性も明らかになった(河野 2017b)。そこで本研究では、2016年度実施分の漢字テストの測定結果、および年少者用 SPOT の測定結果との関連性について分析することを目的とする。

研究の価値・意義:

多言語背景の児童生徒の日本語力を客観的かつ短時間で簡易に測定する方法として、年少者用 SPOT よび年少者用漢字テストの有効性が示唆され、現場の状況や必要性に応じて、児童生徒を対象とした他の各種日本語力測定ツールと使い分けて活用できるようになることは、年少者日本語教育において大変有意義であると考えられる。

研究方法:

本研究は、インターナショナルスクールにおける 2016 年度の測定結果を分析の対象とした。測定は 3 種類の SPOT および漢字テストを用紙版で実施した。実施時期は 2017 年 1~2 月で、クラスごと集団一斉方式で行った。分析では、漢字テストの正答数と担当教師の各児童生徒の日本語力に関する総合評価について比較した。さらに、漢字テストの正答数と SPOT の正答数との関連性についても検討した。

結果と考察:

結果として、漢字テストにおいて、ほとんどの児童生徒は学年別配当漢字表における学年が上がるにつれ正答数が低くなっていた。また、年少者用 SPOT における正答率との関連性も見られた。例外的な結果となった一部の児童生徒に関しては、その要因として言語背景および日本語学習歴の影響などが考えられた。

付記:本研究は、平成 25 年度~平成 28 年度科研費基盤研究 (B) 研究課題番号 25284092 「多言語背景の児童を対象とした多層分岐適応型日本語力診断オンラインテストの開発」(研究代表者:酒井たか子)の一部として行われたものである。

【引用文献】

河野あかね (2017a) 「年少者用 SPOT の縦断的試行と結果—インターナショナルスクールにおける 4 年間の経過—」『CASTEL/J 2017 予稿集』 pp. 127-134

河野あかね (2017b) 「多言語背景の児童生徒を対象とした年少者用 SPOT の実施—インターナショナルスクールにおける測定結果と分析—」『日本語教育方法研究会誌』 Vol. 24, No. 1, pp. 106-107

酒井たか子・河野あかね・小林典子 (2015) 「年少者用 SPOT の開発—問題作成とインターナショナルスクールにおける試行—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 30 号, pp. 21-33